

2014年 2月25日

「リュウキュウ藍染め（型染め）」講座 報告書

鼎 丈太郎

招待講師 大内 一恵先生

日時 2014年 2月22日（土）

参加者 8名

目的

瀬戸内町の「山郷（ヤマゲン）」と呼ばれる地域では明治末から大正初期にかけて、リュウキュウ藍による藍染めが営まれていた。しかし、現在では自生の藍から作られる藍の染料および藍染めは、嘉徳集落のみで行われている。

今回の講座では、現在では貴重となったリュウキュウ藍を使った染色体験を実施することで、リュウキュウ藍の特性や、藍の染料を作り出すまでの工程、そして染色体験を通じて瀬戸内町ならではの染色文化を学び、体験することを目的とする。

本講座1日目は、型紙を使った「型染め」の講座を実施した。「型染め」は瀬戸内町での藍染めでは初めての試みではあるが、「型染め」を藍染めに用いることで、新たな藍染めの魅力を創出し活用する機会とした。

講座内容

1. 型染について
2. 型染の工程について
 - ①下絵を書く
 - ②下絵を型紙に写し、型紙を切る
 - ③型紙に紗（しゃ）を貼る
 - ④型紙に糊を置く
 - ⑤布を乾燥させる
 - ⑥染色(※1日目は①～⑤までの工程を行った)
3. 藍染めの際の注意事項について
 - ①染色
「染色時間2分、酸化時間2分」で1セット
※これを2回行う
 - ②糊落とし（糊と余分な染料を落とす）
 - ③乾燥



型染めの説明



型染め工程の説明



下絵作成



下絵複写



型紙を切る



紗張り



糊置き



乾燥